

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施 主体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	しらかみ 観光振興班	嵯峨未羽子	0185-55- 8006	県北地域広域観光 PR推進事業	県北地域の観光素材や交 通機関を生かしながら、 旅行事業者やメディア、 首都圏等に対して広域観 光メニューのPRや誘客 キャンペーンを行う。	861,282	直営	①メディアキャラバン ②NEXCO観光PR ③イトーヨーカ堂秋田県北フェ ア	県北3地 域振興局 (事務 局:北秋 田地域振 興局)	首都圏旅 行エー ジェン ト、メ ディア、 一般	平成23年4月1日	メディアキャラバンによって、 首都圏メディアや旅行業関係者 へ県北地域の露出を高めた(雑 誌掲載、ANAのHPに特設 ページ開設)。 高速道路SAにて自動車利用者 に対するPR、観光意欲の喚起 を図ることができた。 首都圏の店舗でPRをすること により、首都圏からのアクセ ス、見どころを集中的にアピ ールできた。	県北3局合同事業としての取組 は行わないが、首都圏からの観 光誘客のため、首都圏向け情報 発信が必要である。
						①平成23年8月 1日~2日 ②平成23年9月17日 ③平成23年11月 12日~13日							平成24年10月30日		
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	しらかみ 観光振興班	加茂谷雄樹	0185-55- 8006	米代の恵みマッ チング推進事業	首都圏バイヤーを招聘 し、県北地域の食品の マッチング商談会を行う ことにより、商品のプ ラッシュアップ及び販路 拡大を図る。	741,393	直営	平成24年2月22日~24日に首都 圏のバイヤーを招聘し、地域の 食品事業者との商談会及び現地 視察商談会を実施した。	県北3地 域振興局 (事務 局:山本 地域振興 局)	管内食品 事業者、 首都圏食 品バイ ヤー	平成23年4月1日	首都圏バイヤーを7社招待し、 食品事業者計34社(山本14、鹿 角10、北秋田10)が商談会に参 加した。 食品事業者及びバイヤーからメ リットがあり商談しやすいとい う評価を得ている。	より効果的な商談会の開催方法 等について検討していきたい。
						平成24年2月22日 ~ 平成24年2月24日							平成24年10月30日		
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	しらかみ 観光振興班	嵯峨未羽子	0185-55- 8006	ぐるっと白神情報 発信事業	観光客の求める情報を発 信することで、圏外から の誘客を進めるため、J R東日本等との連携によ る情報発信や、メディア の活用を図る。	2,647,860	委託 負担金	JR東日本秋田支社、青森県と 合同で東京都にて講演会を実施 した。 また、フリーペーパーによる白 神山地情報の発信、白神山地パ ンフレットの作成を行った。	ブナの学 校運営協 議会(J R東日 本、青 森県、 山本 地域振 興局)、 山本 地域振 興局	首都圏在 住者	平成23年4月1日	首都圏における講演会開催、特 産品販売等によって、白神山地 の魅力を来場者に伝えた。 また、メディアの活用や、パン フレット作成・配布によって、 県内外へ広く白神山地をPRす ることができた。	平成25年度に白神山地世界自然 遺産登録20周年を迎えるので、 関係自治体、JR等との連携を 強化し、さらなる情報発信、受 入が必要となる。
						平成23年4月1日 ~ 平成24年3月31日							平成24年10月30日		
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	しらかみ 観光振興班	加茂谷雄樹	0185-55- 8006	観光資源ブラッ シュアップ事業	旅行関係者、ガイド関係 者を対象にスキルアップ セミナー等を開催し、観 光客受入のための接客ス キルや危機管理の向上を 図る。	333,042	直営	計2回のスキルアップセミナー を開催した。 ①平成23年7月13日 「おもてなしセミナー」 接客スキル向上を目的にセミ ナーを開催 ②平成23年11月28日 「観光案内スキルアップセミ ナー」 危機管理能力の向上、受入体制 の整備を目的にセミナーを開催	山本地域 振興局	旅行関係 者、ガイ ド関係者	平成23年4月1日	①「おもてなしセミナー」には 観光関係者・ガイド関係者26名 が参加した。 ②「観光案内スキルアップセミ ナー」には観光関係者・ガイド 関係者43名が参加した。 参加者のアンケートでは効果的 に接客スキルの向上を図ること ができると好評を得ている。	平成25年度に秋田DC、白神山地 世界自然遺産登録20周年を迎 えるので、多くの観光客が訪れる ものと考えられる。そのため、 観光関係者のスキルアップに継 続して取り組みたい。
						①平成23年7月13日 ②平成23年11月28日							平成24年10月30日		
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	地域振興班	田中美由紀	0185-55- 8004	中心市街地活性化 事業	JR能代駅前を中心とし た中心市街地をどのよう に活性化させていくかを 多方面から検証し、具体 的な手法を導き出し、 「能代まちづくりプロ ジェクト検討報告書」と して作成、平成25年度に 再検討される能代市中心 市街地活性化計画に反映 させる。	2,434,626	委託 直営	プロジェクトチームによる中心 市街地の再利用・再開発に関 する検討会開催(4回)、調査委 託(2調査:「能代市域将来交 通計画策定業務」及び「JR能 代駅前広場利用状況調査」)実 施、これらにより「能代まちづ くりプロジェクト検討報告書」 を作成し、能代市に提案した。	山本地域 振興局	一般県民	平成23年4月1日	能代市街地の再利用・再開発に 関し、2種の調査を実施、結果 等を活用し、有識者等を交え ハード面、ソフト面の双方から 効果的かつ具体的手法を導き出 した。能代市の中心市街地活 性化計画に有効かつ効果的に活 用される内容であると考えられ る。	地元住民のまちづくりの気運も 高めながら、当該報告書を能代 市の中心市街地活性化計画に有 効に活用してもらおう働きかけも 必要である。
						平成23年7月5日 ~ 平成24年3月30日							平成24年10月30日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金 ・直営	事業実施状況	事業実施 主体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
農林部	高田 清晃	農業振興 普及課	産地・技術 普及班	佐々木貴博	0185-52- 1241	元気な「白神」野 菜王国づくり支援 事業	管内は野菜生産が盛んで あるが、通年出荷産地化 を目指すこと、多様な販 路拡大と高品質生産を図 ることで、いっそうブラン ド力のある「白神」野 菜王国づくりを推進す る。	1,058,041	直営	1ブランド確立支援 ・ブランド確立検討会 (H24.3.14) ・ブランド確立研修会 (H24.3.14) ・市場等調査 鳥取県、新潟県、埼玉県等を 調査 2ブランド確立実証 ・ネギ、ミョウガ実証ほを設置 し、収穫技術等の検証を実施	山本地域 振興局	野菜生産 者	平成23年4月1日	加工・業務用野菜取扱業者との マッチングに取り組み、安定し た価格による契約出荷が拡大し た。 ブランド確立研修会において加 工・業務用野菜について生産者 の認識が高まった。	出荷品について、安定した品質 と生産量を継続し、野菜取扱業 者の信頼を高めていく。
						平成23年4月1日 ～ 平成24年3月30日							平成24年10月30日		
農林部	高田 清晃	森づくり 推進課	林業振興班	春日 進	0185-52- 2181	“木都”発、秋田 スギ需要拡大推進 事業	「公共建築物木材利用 促進法」の施行を契機 に、「木都」能代に木造 建築物を定着させ、木材 の需要拡大と賑わいのあ る街づくりを進めるた め、自由な発想による木 造公共建築物の設計コン ペを開催する。	1,299,657	直営	公共建築物の高層木造建築工法 の検討（コンペ実施）	山本地域 振興局	建築関係 者	平成23年4月1日	能代山本管外からや、高校生か らも多数応募があり、標識はマ スコミにも報道され、木造建築 について広くPRできた。	この事業の成果を冊子にしてお り、木造建築物のPRを継続し ていく。
						平成23年4月1日 ～ 平成24年3月30日							平成24年10月30日		
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	地域振興班	近藤 幸彦	0185-55- 8004	能代港利活用推進 事業	能代港における取扱貨物 量、取扱品種の増大及び リサイクル資源の確保等 を図る必要がある。	82,769	直営	①港湾利用実態・可能性調査を 実施（能代市と共同実施。実施 時期：平成23年7月中旬、 対象：238企業、回答数：137 〔回答率：57.6%〕） ②酒田市開催「国際循環資源シ ンポジウム」に出席	山本地域 振興局、 能代市	県北企 業・団 体、 能代港湾 振興会会 員	平成23年4月1日	能代市と共同で実施した「港湾 利用実態・可能性調査」では、 県北部の港湾利用事業者等の実 態が把握でき、今後の港の利活 用策及其の方向性を把握するこ とに役立った。 また、酒田市でのシンポジウム 参加は、リサイクル資源の確保 のための情報入手、能代・酒田 両港の連携方法等を探る上で効 果があった。	能代港の利活用は県北地域全体 の産業振興に有効に資するもの であるが、取扱貨物量、取扱品 種増大、特にリサイクル資源の 確保等が課題となっている。 リサイクル資源の確保について は対岸を視野に入れた広域的対 応及び酒田港等との情報交換、 連携等が必要であり、今後もこ れらを継続しながら、情報入 手、ビジネスチャンス拡大に向 けた事業を展開していく必要が ある。
						平成23年7月11日 ～ 平成24年3月22日							平成24年10月30日		
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	地域振興班	近藤 幸彦	0185-55- 8004	旧浅内鉱さい堆積 場利活用に関する 調査事業	能代市旧浅内鉱さい堆積 場の利活用策の実現可能 性等について調査する必 要がある。	626,371	委託 直営	①メガソーラー等の事業化に必 要な立地、施工に係る基礎的 データ収集のため「スウェーデ ン式サウンディング調査」を委 託で実施した。 ②メガソーラーの先進地である 山梨県甲府市米倉山メガソー ラーの状況視察を行った。	山本地域 振興局	一般県民	平成23年4月1日	当該地の利活用の参考に資する サンプリングデータを得ること ができ、実施の意義、効果が あった。 また、メガソーラー先進地視察 により、メガソーラーへの行政 の関わり方、防災機能対応等の 先進情報を得ることができた。	当該実施により事業は終了し た。 ※旧浅内鉱さい堆積場はメガ ソーラー事業への提供可能用地 として「秋田県メガソーラー用 地ガイド」等に掲載されている が、平成24年度以降、県資源エ ネルギー産業課により更なる調 査が行われることになってい る。
						平成23年11月23日 ～ 平成24年2月6日							平成24年10月30日		